

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
中国語 I	花尻 奈緒子	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	中国語は中国以外にもアジアの各国・地域で公用語とされ、また第二外国語としても世界中に学習者を持つ言語です。この授業では、中国語の発音方法を習得するほか、基礎的な文法・単語、中国語の背景にある文化や社会についても学びます。					
到達目標	中国語で簡単な文を作文し、かつ正しい字で表記できるようになり、単純な文を聞いて意味を理解できるようにすることを目標とします。					
回	学習内容	回	学習内容			
1	ガイドダンス・声調	16	前期の復習			
2	単母音と複母音	17	年齢の言い方とたずね方・量詞			
3	子音・鼻韻母	18	数をたずねる疑問詞			
4	軽声・声調の変化	19	比較の表現・3桁以上の数字の言い方			
5	アール化・人称代名詞	20	中国の通貨・値段のたずね方			
6	「是」述語文①	21	年月日と曜日・時刻の表現			
7	「是」述語文②・名前の言い方答え方	22	助動詞「想」・連動文			
8	動詞述語文	23	存在文			
9	疑問詞疑問文	24	前置詞①・反復疑問文			
10	副詞「也」・省略疑問文	25	完了形			
11	指示詞・助詞「的」	26	文末につける「了」・前置詞②			
12	副詞「都」・語気助詞	27	助動詞②・助動詞③			
13	数字・所有を表す「有」・程度副詞	28	二重目的語をとる動詞			
14	形容詞述語文	29	進行形・動詞『～が好きだ』			
15	前期の総復習	30	後期の総復習			
予習内容 復習内容	予習：教科書の次回に学習する部分を読んでくる。 復習：教科書付属問題を使用し知識を確認する。					
教科書	『シンプルチャイニーズ 北京文法篇』（朝日出版社）					
成績評価	出席時の取り組みの姿勢 50%、前・後期の期末試験 50%で成績評価を行います。					
実務経験						
その他 特記事項	予習復習を欠かさずに行うこと。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
ドイツ語 I	今本 幸平	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	<p>初めてドイツ語を学習する人のための科目です。文字（アルファベット）、単語の読み方から始まり、簡単な文の組み立て方や読解を学びます。</p> <p>教員が文法等の説明をした後、自分で練習問題を解き、答えを口頭で発表したり音読の練習をすることで、文法と発音を身につけます。講義を聴いて板書をノートに書きとるだけという受け身の姿勢ではなく、説明に基づいて自分でやってみて、分からないことは自ら調べたり、質問したりするという、能動的な受講態度が必要です。</p>					
到達目標	<p>①ドイツ語の単語や簡単な文（ドイツ語検定試験 5 級程度）を音読できる。</p> <p>②簡単なドイツ語の文（ドイツ語検定試験 5 級程度）を理解し、自分でも作ることができる。</p>					
回	学習内容	回	学習内容			
1	ガイダンス、アルファベット	16	前期の復習			
2	アルファベットと単語の読み方	17	第 4 課 定冠詞の仲間			
3	単語の読み方（挨拶、数字など）	18	第 4 課 練習問題			
4	第 1 課 文の作り方（動詞について）	19	第 4 課 不定冠詞の仲間			
5	第 1 課 重要な動詞、語順の原則	20	第 4 課 練習問題、会話文			
6	第 1 課 練習問題、会話文	21	第 5 課 名詞の複数形			
7	第 2 課 名詞について（名詞の性別）	22	第 5 課 人称代名詞			
8	第 2 課 名詞の「格」について	23	第 5 課 練習問題、会話文			
9	第 2 課 重要な動詞	24	復習と中間テスト			
10	第 2 課 練習問題、会話文	25	第 6 課 前置詞の使い方			
11	復習と中間テスト	26	第 6 課 練習問題、会話文			
12	第 3 課 不規則動詞	27	第 7 課 形容詞の使い方			
13	第 3 課 不規則動詞の練習問題、命令形	28	第 7 課 練習問題、会話文			
14	第 3 課 練習問題、会話文	29	後期の復習			
15	前期の復習	30	前期・後期の復習			
予習内容 復習内容	<p>予習：学習している「課」に出てくる単語の意味を辞書で調べ、音読する。</p> <p>復習：授業で出てきた文を音読する。学習した個所の練習問題（宿題）を解き、音読する。</p>					
教科書	<p>①『PANORAMA Deutsch（パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール）』、白水社</p> <p>②独和辞典（4 月中は使用しない。詳細は初回講義で説明）※ 5 月以降は必ず①②両方持参すること</p>					
成績評価	<p>前期試験と後期試験の点数に基づいて成績評価を行う。授業中に行う小テスト、中間テスト等の点数は参考程度とする。前・後期とも 10 回以上講義に出席しないと評価対象外となる（遅刻・早退は 0.5 回の出席とみなす）。</p>					
実務経験						
その他 特記事項	<p>体育の授業で競技のルールを習っただけでは、その競技ができるようにならないのと同じで、外国語も説明を聴くだけでなく、自分でやってみなくては身につけません。その時、間違えることを気にする必要はありません。むしろ間違えることを通じて学ぶというつもりで取り組んでください。</p>					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
英会話	マイルズ・オブライエン	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	このコースでは、さまざまな場面での日常英語を練習し、すでに知っている英語をより有用なものにできるようにすることを目的としています。前期は、観光や留学で海外に行くときや、外国人旅行者に日本のことを説明するときに必要な英語を学びます。後半では、英語圏での日常生活について学びます。教科書は使用せず、リスニングを含むオンライン教材（学外でも PC、タブレット、スマートフォンで使用可能）を両学期とも基本的に使用します。					
到達目標	このコースでは、言語学習の概念・機能的アプローチに基づいたオンライン教材を使用して、実際のさまざまな状況でコミュニケーションのために英語を使用する能力を高めることを目的とする。					
回	学習内容	回	学習内容			
1	Introduction. Practice with computer system	16	Introductions. Wh- questions & answers			
2	Flight, immigration, customs	17	Daily routines - How often?			
3	Money, taxi, bus, hotel	18	Can / Can't			
4	Restaurants and eating out	19	Rules, Instructions (do / don't)			
5	Meeting people	20	Future planning - will / going to			
6	Simple medical problems	21	Telling about yourself			
7	Talking about Japan 1	22	Talking about the past			
8	Talking about Japan 2	23	Changes			
9	College life	24	Asking about others			
10	Money, shopping, security	25	Many uses of -ING verbs			
11	Asking for and giving directions	26	Likes and dislikes			
12	Sightseeing, the Grand Canyon	27	Negative and tag questions			
13	Home stay	28	Preferences - Which? What?			
14	Getting help - pharmacy, having something stolen	29	Shopping and prices, understanding money amounts			
15	Review of the course so far	30	Overall course review			
予習内容 復習内容	予習は、毎週次回のトピックについて考えて、関係のありそう単語や表現を少し調べておく。復習は、オンライン教材で自由に学外でも練習がいつでもできる。					
教科書	教科書は使用せず、オンライン教材を使う					
成績評価	オンライン教材の使用結果記録 50%、筆記試験 50% 通年 11 回以上欠席をした場合、試験の受験資格はない。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
英語講読	村井 美代子	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	<p>科学技術や教育、文化、環境問題など現代社会の様々な話題を、各ユニット読み切り形式でまとめたテキストを使用する。1つのユニットを2～3回の授業で読了する予定。</p> <p>1ユニット400～500語程度のリーディング課題の読解を通して、英文の内容を速く的確に把握できる力を養う。各ユニットには、内容理解を問う問題や、語彙に関する問題などが用意されている。課題への取り組みを通して、これまでの英語学習の基礎の上に、英文の内容を正確に把握できる実践的な読解力を身に付けることを目的とする。</p>					
到達目標	<p>①400～500語程度の英文内容を速く正確に把握できる実践的な読解力をつける。</p> <p>②語彙や文法、イディオムに関する知識を確認し、実践で活用できる応用力をつける。</p>					
回	学習内容		回	学習内容		
1	オリエンテーション（授業の進め方・成績評価）		16	前期試験返却 Unit 8：オンラインコミュニケーションの弊害		
2	Unit 1：pandemic の語源をたどる		17	Unit 8：オンラインコミュニケーションの弊害		
3	Unit 1：pandemic の語源をたどる		18	Unit 9：持続可能な都市づくりのために		
4	Unit 2：「熱さまシート」の開発経緯		19	Unit 9：持続可能な都市づくりのために		
5	Unit 2：「熱さまシート」の開発経緯		20	Unit 10：ブルーカーボンとは？		
6	Unit 3：NASA とスヌーピーとのつながり		21	Unit 10：ブルーカーボンとは？		
7	Unit 3：NASA とスヌーピーとのつながり		22	Unit 11：ChatGPT の教育に対する影響		
8	Unit 4：指紋認識精度を高める		23	Unit 11：ChatGPT の教育に対する影響		
9	Unit 4：指紋認識精度を高める		24	Unit 12：鉄腕アトムと NASA の DART ミッション		
10	Unit 5：「リケジョ」の先駆者たち		25	Unit 12：鉄腕アトムと NASA の DART ミッション		
11	Unit 5：「リケジョ」の先駆者たち		26	Unit 13：色の認識について		
12	Unit 6：ルービックキューブの歴史		27	Unit 13：色の認識について		
13	Unit 6：ルービックキューブの歴史		28	Unit 14：結論に飛びつく私たちの認知の特性		
14	Unit 7：世界で最も美しい駅の1つ：金沢駅		29	Unit 14：結論に飛びつく私たちの認知の特性		
15	Unit 7：世界で最も美しい駅の1つ：金沢駅		30	Unit 15：情報のオーバーロードへの対策		
予習内容 復習内容	<p>テキストに目を通して単語やイディオムの意味を調べ、内容を一定程度理解して出席する。</p> <p>提出課題がある場合は課題に取り組み、読了したテキスト内容を確認して次回分の予習につなげる。</p>					
教科書	『リーディングプロスペクト 英文読解の総合演習』（三修社）					
成績評価	<p>試験（前期と後期に実施）70% + 平常点（出席状況、課題提出、学習態度、発言等）30%</p> <p>前期後期それぞれ3分の2以上の出席がない場合は評価の対象外とする。</p>					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
情報処理実習 I	笠 浩一朗	実習	1		4	3
授業概要 授業目的	現在、あらゆる場面でコンピュータの利用が欠かせなくなっている。特に、オフィスソフトは、あらゆる業種で仕事に欠かせないものになっている。本講義では、オフィスソフトに関する基礎知識や基本操作を習得することを目的とする。講義では、アプリケーションソフト（Word, Excel, PowerPoint）を利用した課題に取り組む。					
到達目標	本講義では、オフィスソフトに関する基礎知識及び基本操作を習得すること、及び、到達目標に指導する。					
回	学習内容					
1	情報処理演習室の利用方法とコンピュータの基本操作					
2	Word の基礎 1（各部の名称、ページ設定、文書入力、スタイル）とタイピング練習					
3	Word の基礎 2（表の作成、SmartArt グラフィック）					
4	Word の基礎 3（図の作成、ヘッダーとフッター）					
5	Word の基礎 4（段組み、数式）					
6	Excel の基礎 1（入力方法、オートフィル、書式設定）					
7	Excel の基礎 2（絶対参照と相対参照、関数）					
8	Excel の基礎 3（グラフの基礎）、データリテラシー 1（データを読む）					
9	Excel の基礎 4（グラフの応用）、データリテラシー 2（データを説明する）					
10	Excel の基礎 5（表計算の応用）、データリテラシー 3（データを扱う）					
11	PowerPoint の基礎（スライドマスタ、入力方法、図表の挿入）					
12	最終課題の作成 1（最終課題の内容説明、課題のための情報収集）					
13	最終課題の作成 2（発表資料、配布資料の作成）					
14	最終課題の発表					
15	最終課題の発表と本講義のまとめ					
予習内容 復習内容	次回の講義について、教科書を事前に読んで確認しておくこと。 課題は、講義内では完了しないことが多いので、講義外でも課題に取り組むこと。					
教科書	「Microsoft Office2019 を使った 情報リテラシーの基礎」, 近代科学者 (ISBN978-4-7649-0601-3)					
成績評価	Word 課題 (20%)、Excel 課題 (20%)、PowerPoint 課題 (10%)、最終課題 (50%)					
実務経験	なし					
その他 特記事項	なし					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
体育講義	石川 拓次	講義	2		2	3
授業概要 授業目的	本講義では、身体のしくみを知り、効率的に運動することの重要性を理解し、身体活動を通して、社会性、協調性、コミュニケーション力を身につけることの必要性について学ぶ。さらに、スポーツ文化に親しみ、スポーツが多文化共生とどのように関わっているかペア討議を通して理解することを目的とする。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・トレーニングに関する知識を理解することができる。（知識・理解） ・健康・疾患と生活習慣の関係について考えることができる。（思考・判断） ・スポーツイベントやスポーツに関する諸問題について考えることができる。（思考・判断） 					
回	学習内容					
1	第1回 オリエンテーション・コンセンサスゲーム					
2	第2回 健康とは？					
3	第3回 身体の仕組み（内科編）					
4	第4回 内科的疾患①生活習慣病					
5	第5回 内科的疾患②がん・感染症					
6	第6回 身体の仕組み（運動器編）					
7	第7回 トレーニングと健康（骨格筋と運動）					
8	第8回 トレーニングと健康（呼吸循環器と運動）					
9	第9回 こどもとスポーツ					
10	第10回 高齢者とスポーツ					
11	第11回 女性とスポーツ					
12	第12回 スポーツ外傷・障害の基礎					
13	第13回 スポーツと栄養					
14	第14回 スポーツに関わる諸問題					
15	第15回 スポーツイベント					
予習内容 復習内容	各講義ごとに出される講義内容に関連した事前課題および事後課題に取り組み提出を行う。（各回 90分程度）					
教科書	指定しない					
成績評価	<p>定期試験（筆記）試験は行わない。 課題レポート（50%）、授業時の提出物（50%） 評価基準：課題レポートは受講生の到達目標すべてに対応して、学修到達度を最終的に確認するためのものである。授業時の提出物は授業内容を踏まえて的確に自分の考えを記述しているかを評価する。</p>					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
体育実技	石川 拓次	講義	1		2	3
授業概要 授業目的	様々な球技、レクリエーションゲームに親しみ、スポーツの楽しさを体感し、その特性を理解する。また、運動やトレーニングを通して、自らの健康管理や体力作りの方法を習得するとともに、運動を習慣化する態度を身につける。さらにスポーツを通して、社会性、協調性、コミュニケーション力を身につけ、自らの人生におけるスポーツの意義について受講生全体でディスカッションを行い、生涯スポーツの基礎を作る。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 健康の保持増進に加えて、スポーツを通して心身の調和について理解することができる。（知識・理解） 2 それぞれのライフスタイルに応じたスポーツ活動を考え、参加することができる。（思考・判断） 3 生涯スポーツを自主的にプランニングする能力と態度を養うことができる。（思考・判断） 					
回	学習内容					
1	オリエンテーション・体力測定					
2	バドミントン (1) 基本的なストローク					
3	バドミントン (2) シングルス総当たり戦 1					
4	バドミントン (3) ダブルス総当たり戦 2					
5	バスケットボール (1) 基本動作 (パス, ドリブル, シュート)					
6	バスケットボール (2) 総当たり戦 1					
7	バスケットボール (3) 総当たり戦 2					
8	バレーボール (1) 基本動作 (アンダー・オーバーハンド) ソフトバレーボール					
9	バレーボール (2) 総当たり戦 1					
10	バレーボール (3) 総当たり戦 2					
11	卓球 (1) 基本的なストロークの練習・シングルス					
12	卓球 (2) 総当たり戦 1					
13	ニュースポーツ (1) インディアカ					
14	ニュースポーツ (2) インディアカ					
15	体力測定					
予習内容 復習内容	授業で行う種目について、インターネットや図書でルール等を調べる。（毎回 90 分程度）					
教科書	指定しない					
成績評価	<p>定期試験（筆記）は行わない。</p> <p>授業への積極的態度 30% 体力測定 40% レポート 30%</p> <p>評価基準：体力測定は受講生の到達目標すべてに対応して、学修到達度を最終的に確認するためのテストである。レポート課題は、授業内容を踏まえて的確に自己表現できているかを評価する。</p>					
実務経験	なし					
その他 特記事項	なし					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
環境論	古山 歩	講義	2		2	3
授業概要 授業目的	我々の生活は地球上に生息する様々な生物とそれらを取り巻く環境によって支えられている。近年、各地で発生する様々な環境問題によって、生態系や生物多様性が脅かされており、早急な対策が求められている。本講義では生態系や生物多様性を脅かす問題について、概要と対策を具体的に解説するとともに、今後の人間社会と生物や環境との関わり方を考える。					
到達目標	(1) 現在地球上で起きている様々な環境問題とその対策について基礎的な知識を獲得する。 (2) 環境問題対策の効果と問題点を理解し、自らの意見を述べられるようになる。					
回	学習内容					
1	ガイダンス、生物の分類・生物多様性、生態系とそのサービス					
2	基礎的な生態学					
3	環境問題の概要					
4	地球温暖化Ⅰ：概要と環境・生物への影響					
5	地球温暖化Ⅱ：対策と課題					
6	再生可能エネルギーの利点と課題					
7	都市開発					
8	海洋汚染					
9	生物の乱獲・混獲					
10	捕鯨					
11	外来生物Ⅰ：概要と生態系への影響					
12	外来生物Ⅱ：対策・駆除とその課題					
13	人為的影響による生物の絶滅とレッドリスト					
14	生物の保護・増殖事業					
15	まとめ					
予習内容 復習内容	予習：現在起きている環境問題について、インターネットやニュースなどで調べる。 復習：配布資料の確認・振り返りを行う。					
教科書	なし。講義にて資料を配布する。					
成績評価	毎講義終わりに実施する課題：40% 試験：60% 1/3(5回)を超えて欠席した場合、評価の対象になりません。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
教育学	伊東 直人	講義	2		2	3
授業概要 授業目的	教育の暫定的な規定や、子ども達が最初に出会う社会である学校教育の位置・役割について理解するとともに、教育行政の基本原則や教育委員会制度の仕組みについて学習する。さらに、生涯学習社会の構築の必要性とその体制の整備について学ぶ。加えて、実際に就職した際に求められる力量の基礎を身に付けるため、グループディスカッションを行うなど参加型の授業の手法を取り入れ、グループによる課題調査・討論を実施する。					
到達目標	1) 教育の暫定的な規定や、子ども達が最初に出会う社会である学校教育の位置・役割について説明することができる。 2) 教育行政の基本原則や教育委員会制度の仕組みを説明することができる。 3) 生涯学習社会の構築の必要性とその体制の整備について説明することができる。 4) グループ討議・発表において、積極的に議論へ参加することができる。					
回	学習内容					
1	オリエンテーション、教育の意義と本質					
2	教育の必要性と可能性					
3	社会化と学校教育の位置・役割					
4	教育関連法制度、及び教育行政機関の役割と学校との関わりについて					
5	国における教育政策の動向					
6	教育行政の変容					
7	教育委員会制度の見直し					
8	生涯学習体系への移行					
9	学校の経営と学校評価					
10	令和の日本型学校教育					
11	教育の機会均等Ⅰ 義務教育制度を踏まえて					
12	教育の機会均等Ⅱ 不登校・いじめ問題・貧困・ヤングケアラー等子どもをめぐる課題を踏まえて					
13	学校危機管理					
14	学校における ICT 活用					
15	子ども・子育て支援制度と幼児期の教育					
予習内容 復習内容	最新の教育時事や教育情報収集を日常的に行う。また、事前学習として参考資料等を活用し、まとめを2時間、事後学習として授業スライドのまとめを2時間程度行うこと。講義受講用のノートを作成し、テキスト内容をまとめるなどの事前学習、授業後のまとめを行うこと。					
教科書	適宜資料を配布する。					
成績評価	最終レポート（40%）、小レポート・授業振り返り（40%）、授業の参加意欲・討議への参加度（20%）					
実務経験	18年間の小学校教諭を経て、平成14～21年度指導主事（8年）、平成22～23年度小学校教頭（2年）、平成24～令和元年度小学校長（8年）として勤務					
その他 特記事項	なし					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
差別と人権	伊藤 信也	講義	2		2	3
授業概要 授業目的	<p>1. この科目では、基本的人権と差別の問題を考えていきます。人権とは何か、人権はなぜ重要なのか、私たちの人権の実態はどのようになっているのか、その歴史と現状について考えていきます。基本的人権という考え方は、フランス人権宣言などにおいて明文化されてきましたが、こうした人権の歴史的な形成の経過を学ぶとともに、その内容の発展を知ることによって人権の普遍的な意味を考えたいと思います。</p> <p>2. テーマ別に現代の差別問題について考えていきます。どのテーマから取り上げるかは講義開始時にお知らせしますが、人種差別、性差別、国籍差別、部落差別、「障害者」差別など、世界と日本の様々な差別問題を取り上げる予定です。理解を深めるために、随時映像資料を上映する予定です。</p>					
到達目標	<p>①人権思想の歴史を正しく知り、人権概念の基本的知識を身につけること。 ②現代の差別問題の基本的様相を理解すること。 ③「デマ」や「フェイクニュース」に流されず、正確な知識と根拠を知って人権や差別問題と向き合えること。</p>					
回	学習内容					
1	授業概説：現代社会と人権					
2	基本的人権の成立史：トーマス・ホッブズの思想と近代人権概念の誕生					
3	基本的人権の成立史：宗教改革と自由					
4	基本的人権の成立史：近代的人権の特徴と課題					
5	基本的人権の成立史：フランス革命とその批判者たち					
6	基本的人権の成立史：人権から取り残された「女性」たちのたたかい					
7	基本的人権の成立史：人権から取り残された「植民地」「先住民」の実態					
8	基本的人権の成立史：現代の人権思想の到達点と課題					
9	現代の差別問題：人種差別の歴史と現在～アメリカの場合～					
10	現代の差別問題：「障害者」差別と優生思想～「ナチス」ドイツ、そして日本でも～					
11	現代の差別問題：「女性差別」から「ジェンダー平等」へ					
12	現代の差別問題：在日外国人差別と「ヘイトスピーチ」規制					
13	現代の差別問題：「部落」差別問題の構造					
14	現代の差別問題：感染症と差別問題の歴史					
15	21世紀の人権問題への視点を考える					
予習内容 復習内容	予習：事前に提示した資料や参考文献に目を通しておく。 復習：プリントの内容を復習する。					
教科書	なし。毎回プリントを配布します。必要な資料等もプリントで配布します。その他、参考文献は講義中に提示します。					
成績評価	1. 講義中に実施する「ミニレポート」（意見提出。配点は40%）、2. 講義の最終日に提出する「期末レポート」（配点は40%）、3. 積極的な受講姿勢（配点は20%）					
実務経験						
その他 特記事項	歴史（特に世界史）の知識の多寡は問いません。講義は可能な限り工夫して進めていきます。映像資料はドキュメンタリー・ビデオなどを予定しています。人権問題や差別問題に関心のある学生による積極的な授業参加と授業環境の保持を求めます。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
歴史学	望月 秀人	講義	2		2	3
授業概要 授業目的	西洋近代は明治時代以来、長らく日本にとっては追いつくべき模範でしたが、現在ではそうした西洋中心主義は批判され、むしろ他地域と対等に比較すべき一対象となっています。本講義ではそうした状況を踏まえつつ、西洋近代社会の成り立ちと展開を概説的に講義することで、日本にとって何を見習うべきであり、何を見習うべきでないのか、学生の皆さんと考えていきたいと思いをします。					
到達目標	西洋近代史の大きな流れを理解でき、日本社会との比較や現代とのつながりが理解できる。					
回	学習内容					
1	ガイダンス：歴史学とは					
2	大航海時代と世界の一体化					
3	宗教改革と宗派分裂					
4	宗教戦争と世俗化					
5	中世の封建制					
6	中世封建制から近世の「絶対王政」へ					
7	「絶対王政」の意義と限界					
8	フランス革命の勃発					
9	「市民革命」と近代国家					
10	革命とナショナリズムの時代					
11	工業化とその影響					
12	第一次世界大戦の衝撃					
13	戦後処理方法の変化					
14	大恐慌とファシズム					
15	近代という時代について					
予習内容 復習内容	予習内容は、新聞等で時事問題への関心をもつこと。あとは、授業内容の復習をしてください。					
教科書	テキストは特に定めません。毎回のレジュメに掲載されている出典を参考にして下さい。ただ、山川出版社の高校世界史教科書程度のもは持っていた方が良いでしょう。					
成績評価	定期試験 60%、レポート 40%で判断します。試験は紙媒体持ち込み可の論述試験で、講義内容に即して回答するものとします。レポートについては講義の際に説明します。6 回以上の欠席はその時点で単位を失うものとします。					
実務経験						
その他 特記事項	言うまでもなく、講義中の私語や徘徊は原則禁止とします。学生としてふさわしい受講態度をとるようにして下さい。また、時事ネタ等を通じて、社会の課題に敏感になるようにして下さい。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
哲学	吉本 陵	講義	2		2	3
授業概要 授業目的	現代の科学技術は私たちの社会に大きな影響を与え続けています。この授業では科学技術が私たちの（誕生と死を含む）生命に与える影響に焦点を当て、科学技術時代における生と死の意味という問題について哲学的に考察することを試みます。					
到達目標	科学技術が私たちの（誕生と死を含む）生命に対する影響に関する論点を理解すること。上記の論点について自ら文献資料を調べ、考えたことを論述できるようになること。					
回	学習内容					
1	ガイダンス&イントロダクション					
2	哲学的・倫理的なものの考え方（1）功利主義と義務論					
3	哲学的・倫理的なものの考え方（2）理論を学ぶ意味					
4	現代社会と動物の問題（1）ペットについて					
5	現代社会と動物の問題（2）家畜について					
6	現代社会と動物の問題（3）肉食について					
7	出生前診断と優生思想（1）医療倫理の原則					
8	出生前診断と優生思想（2）出生前診断の歴史と現状					
9	出生前診断と優生思想（3）旧優生保護法と内なる優生思想					
10	脳死臓器移植の倫理（1）脳死について					
11	脳死臓器移植の倫理（2）脳死臓器移植について					
12	未来に対する責任（1）核燃料サイクルの問題					
13	未来に対する責任（2）高レベル放射性廃棄物処分の経緯と現状					
14	未来に対する責任（3）高レベル放射性廃棄物処分の課題					
15	未来に対する責任（4）「100,000年後の安全」は可能か？					
予習内容 復習内容	予習：学習内容に記載されている用語を調べておくこと。 復習：適宜配布する参考文献表を参考にしながら、毎週配布する講義資料の振り返りをする事。					
教科書	教科書は使用しない。参考文献は適宜指示する。					
成績評価	定期試験(80%)に、平常点(20%)を加味して評価する。					
実務経験						
その他 特記事項	各回の授業後、講義内容についての基本的な質問に対する解答の提出を求める。平常点はそれをもとに評価する。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
文学 I	今本 幸平	講義	2		2	3
授業概要 授業目的	この講義ではヨーロッパの有名な文学作品を取り上げます。時代も国も、私たちからは遠く離れた作品ですが、そこに描かれる人間の姿は、現代の私たちにも通じる部分が多々あると思います。とはいえ、何の手がかりもなく読んでも分かりにくい部分も出てくると思います。講義では、適宜画像などの資料も使いながら、作者、当時の時代背景、文化など、周辺の事柄も視野にいれつつ、作品をより身近に感じて味わうための要点を示してゆきたいと思います。					
到達目標	①文学作品に親しみ、読書を楽しめるようになる。 ②読んだ作品の要約や意見などを、分かりやすい文章で伝えられるようになる。					
回	学習内容					
1	ガイダンス（講義概要、イタロ・カルヴィーノ『なぜ古典を読むのか』）					
2	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第1幕					
3	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第2幕					
4	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第3幕					
5	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第4、5幕					
6	シェイクスピア『夏の夜の夢』第1幕					
7	シェイクスピア『夏の夜の夢』第2、3幕					
8	シェイクスピア『夏の夜の夢』第4、5幕					
9	ドイツの民衆本『ティルオイレンシュピーゲルのゆかいないたずら』					
10	シェリー『フランケンシュタイン』①					
11	シェリー『フランケンシュタイン』②					
12	シェリー『フランケンシュタイン』③					
13	メリメ『カルメン』					
14	デュマ・フィス『椿姫』①					
15	デュマ・フィス『椿姫』②					
予習内容 復習内容	予習：自分が楽しく読める文学作品を見つける。（作者は不問） 復習：講義で紹介した作品を読む。					
教科書	教科書は使用せず、資料（本文の抜粋）を配布する。					
成績評価	学期末の筆記試験 70%、毎回のコメント 30%。欠席が 5 回を超えた場合は成績評価の対象外。講義開始 20 分以降の入室は欠席扱いとする（列車遅延等の不可抗力は除く）。					
実務経験						
その他 特記事項	取り上げる作品と講義の順序は予告なく変更する場合がある。 「文学 I」と「文学 II」はどちらを先に履修しても構わない。どちらか一つだけの履修も可。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
文学Ⅱ	今本 幸平	講義	2		2	3
授業概要 授業目的	この講義ではドイツ語圏の文学作品を取り上げます。難しそうな印象があるかもしれませんが、文学の読み方に正解はないので、皆さんの理解が及ぶ範囲で、等身大の読み方をしてください。講義では文学作品をすこしでも身近に感じてもらえるように、適宜映像などの資料も使い、作者、当時の社会背景、文化などの周辺事情も視野に入れて、作品の紹介をしてゆきます。					
到達目標	①文学作品に親しみ、読書を楽しめるようになる。 ②読んだ作品の要約や意見などを、分かりやすい文章で伝えられるようになる。					
回	学習内容					
1	ガイダンス（講義概要、イタロ・カルヴィーノ『なぜ古典を読むのか』）					
2	ゲーテ『若きウェルテルの悩み』第1部					
3	ゲーテ『若きウェルテルの悩み』第2部					
4	ドイツの民衆本『ファウスト博士』					
5	ゲーテ『ファウスト 悲劇』第1部前半					
6	ゲーテ『ファウスト 悲劇』第1部後半					
7	ゲーテ『魔王』					
8	グリム童話					
9	シャミッソー『影をなくした男』					
10	ホフマン『砂男』					
11	シュペーリ『ハイジ』①					
12	シュペーリ『ハイジ』②					
13	カフカ『変身』					
14	シュリンク『朗読者』第1部					
15	シュリンク『朗読者』第2、3部					
予習内容 復習内容	予習：自分が楽しく読める文学作品を見つける。（作者は不問） 復習：講義で紹介した作品を読む。					
教科書	教科書は使用せず、資料（本文の抜粋）を配布する。					
成績評価	学期末の筆記試験 70%、毎回のコメント 30%。欠席が5回を超えた場合は成績評価の対象外。講義開始 20分以降の入室は欠席扱いとする（列車遅延等の不可抗力は除く）。					
実務経験						
その他 特記事項	取り上げる作品と講義の順序は予告なく変更する場合がある。 「文学Ⅰ」と「文学Ⅱ」はどちらを先に履修しても構わない。どちらか一つだけの履修も可。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
比較文化論	嶋田 宏司	講義	2		2	3
授業概要 授業目的	<p>西洋近代の美術に学んだ日本の画家たちが、いかにして独自の表現様式を獲得したかについて、印象主義からポスト印象主義、フォーヴィスム、キュビズムの作品を技術と理論を解説しながら、これらに対応する日本の画家たちの作品を観察してゆく。</p> <p>芸術家は外部から影響を受けながら、表現の個性を確立してゆく。この「芸術的個性の確立」とはどのようなものかということを考える。</p>					
到達目標	<p>西洋近代美術史と日本の洋画史との影響関係を理解する。</p> <p>美術作品の観察から表現内容の把握、その記述までのプロセスを理解し、自身で作品を実見したときに実践・応用できる。</p>					
回	学習内容					
1	フランスにおける、レアリズムから印象主義まで					
2	ギュスターヴ・クールベ					
3	バルビゾン派 1					
4	バルビゾン派 2					
5	印象主義とクロード・モネ					
6	印象主義の展開と技術的、および理論的側面					
7	黒田清輝、久米桂一郎					
8	藤島武二					
9	青木繁					
10	梅原龍三郎					
11	梅原龍三郎、安井曾太郎とフォーヴィスム					
12	安井曾太郎					
13	萬鉄五郎					
14	萬鉄五郎とキュビズム					
15	学んできた美術史を振り返る					
予習内容 復習内容	<p>予習として西洋美術史・日本美術史などの全集を読んでもみるのも良いですが、『そのとき、西洋では 時代で比べる日本美術と西洋美術』（宮下規久朗著、小学館、2019年）などの入門的な書籍が便利です。授業で学んだ作品観察あるいは記述の方法を、展覧会や美術館での実見に生かしてください。</p>					
教科書	教科書は使用しません。画家・作品に関する資料を配布します。					
成績評価	学期末試験で評価します。欠席が3分の1を超えた場合は評価の対象外とします。					
実務経験						
その他 特記事項	提示する図版資料の制約により、観察する画家あるいは作品が変更になる可能性があります。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
統計学	熊澤 大輔	講義	2		1	2, 3
授業概要 授業目的	産業連関表を用いた経済波及効果の計算方法を学びます。産業連関表は社会全体の投入-産出関係を表したもので、様々な経済分析に応用することができます。本講義では、投下労働量（雇用の波及効果）に着目することで、たとえば、少子高齢化が進む中で十分な医療・介護を受けるためにはどれだけの労働人数が必要かといった問いに対して、具体的な計算方法があることを紹介します。授業では簡単な数値計算から始まり、後半には Excel を用いて簡単な投下労働量計算を行う予定です。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・産業連関表の読み方を覚える。 ・産業連関表を用いて経済波及効果や投下労働量が計算できるようになる。 ・Excel で投下労働量を計算してみる。 					
回	学習内容					
1	イントロダクション（講義の射程、成績評価、経済波及効果とは？）					
2	産業連関表の読み方①（取引基本表、投入係数表）					
3	産業連関表の読み方②（逆行列係数表、雇用表、経済波及効果）					
4	2 部門モデルにおける波及効果の計算方法（財・サービスの波及効果、投下労働量）					
5	練習問題①（コーンと油、取引基本表、投入係数表、逆行列係数表、投下労働量）					
6	財と労働の配分（コメと酒、労働配分、純生産の取り換え比率、日本の労働配分）					
7	代数を用いた 1 部門モデル（必要労働、剰余労働、労働の搾取、マルクスの基本定理の図解）					
8	代数を用いた 2 部門モデル①（取引基本表、逆行列係数表、投下労働量、労働配分）					
9	2 部門モデルにおける分配の計算方法（剰余生産物、必要労働、剰余労働、搾取率）					
10	練習問題②（純生産物の配分、投下労働量単位の取引基本表）					
11	現代の諸課題について労働配分から考える					
12	中間レポート（授業内に問題を解いて提出、授業資料は自由に閲覧可）					
13	Excel を用いた波及効果の計算方法①解説編					
14	Excel を用いた波及交換の計算方法②操作編					
15	産業連関分析で出来ること					
予習内容 復習内容	毎回の授業内容及び練習問題が解けるよう復習すること。					
教科書	毎回パワーポイントを配布する。					
成績評価	中間レポート (50%) 期末レポート (Excel を用いた課題) (50%)					
実務経験						
その他 特記事項	レジュメの配布や出欠管理、レポートの提出などすべて Google の Classroom を用いて行います。Excel の基本操作ができることを前提に 13 回及び 14 回の授業は行われますので注意して下さい。					